

PRESS  
RELEASE

平成 27 年 2 月 4 日

**徳島大学病院ではうつ病患者の血液の生物学的指標を発見しました。**

[送付枚数 2 枚]

(報道概要)

血液の遺伝子の DNA メチル化修飾という化学反応を複数組み合わせることにより、うつ病患者とうつ病でない人とを判別できる可能性のあることを、厚生労働省の研究班の主任研究者である徳島大学精神科神経科の大森哲郎教授と沼田周助講師らの研究グループが、共同研究を行い（広島大学、高知大学、神戸大学、徳島大学人類遺伝学教室、東京農工大学）、明らかにしました。これらの研究成果は、うつ病の客観的な診断マーカーの開発に役立つことが期待されます。

うつ病の障害有病率は一般人口の 5-8%と頻度が高い疾患で、ストレスなどのさまざまな要因により生じると考えられています。うつ病の診断は、抑うつ気分や意欲低下などの臨床症状に基づいて行われており、診断に苦慮する例もあります。うつ病の診断マーカーの開発は、早期診断・早期治療・治療予後改善に寄与すると思われます。

研究グループでは、ストレスなどの環境要因が DNA メチル化修飾に影響を与えることに注目し、協力が得られた日本人の薬を内服していないうつ病患者 20 名と、うつ病でない 19 名の血液採取し、網羅的に多くの遺伝子の DNA メチル化修飾レベルを測定、比較し、うつ病群とうつ病でない群に分けることができる遺伝子の選定を行いました。次に、独立したうつ病患者 12 名と、うつ病でない 12 名の血液採取し、選定したマーカーに再現性があることを確認し、血液のメチル化を利用したうつ病の診断マーカー同定の可能性を示しました。本成果は、英科学誌、Epigenetics 電子版に掲載されました。

うつ病の診断マーカーの開発に役立つ可能性のある重要な知見が、徳島大学を中心とする多施設臨床研究で明らかになりましたので、この件について報道下さいますようよろしくお願いいたします。

大森哲郎（おおもり・てつろう）

徳島大学病院精神科神経科長（大学院ヘルスバイオサイエンス研究部精神  
医学分野・教授）

沼田周助（ぬまた・しゅうすけ）

徳島大学病院精神科神経科・講師

**お問い合わせ先**

部局名 徳島大学病院

責任者 病院長 安井 夏生

担当者 徳島大学病院 精神科神経科長 大森哲郎

電話番号 ０８８－６３３－７１３０